

令和3年1月24日 4県連携自主防災組織交流大会

三重県四日市市

浜田地区の防災

～互助・互敬の  
精神を育てよう～

三重県四日市市

浜田地区自主防災組織連絡協議会

会長 山路 和良

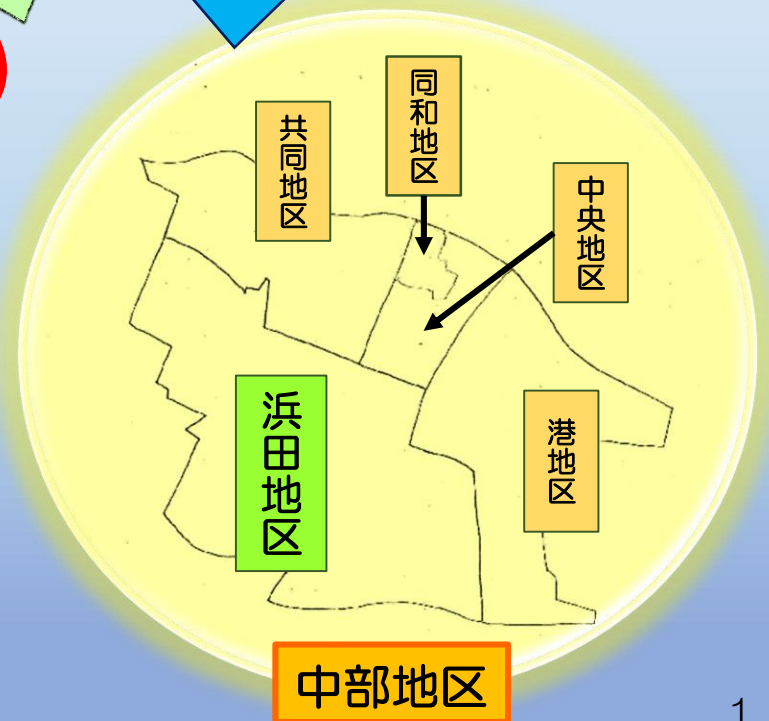
# 四日市市 浜田地区について

# 四日市市

三重県の北勢にある四日市市には28の地区があります。浜田地区は市内でも沿岸部に位置します。

四日市市人口 311,460人  
四日市市面積 206.48km<sup>2</sup>

令和2年12月1日現在



## 浜田地区

浜田地区の人口は、四日市市内28地区中12番目です。  
(中部地区では人口・面積ともに約半分を浜田地区が占める)

浜田地区人口 11,980人  
浜田地区面積 3.00km<sup>2</sup>

令和2年10月1日現在

# 浜田地区と港中学校・浜田小学校

浜田地区には、港中学校と浜田小学校があります。  
港中学校は、一部地区外の生徒もいますが、浜田地区が校区となっている中学校です。



# 浜田地区が目指すところ

浜田地区では平成29年度より、港中学校の土曜授業（平成30年度からは土曜活動日）に併せて『浜田地区防災訓練』を実施しています。

浜田地区の防災訓練には、地域とのかかわりや地域での役割を、中学生自身に考えてもらいたいがあります。

1年生から3年生まで学年別に、地域での役割のとらえ方に浜田地区独自で**目標**を設定し、訓練に参加してもらっています。

体力、精神力が向上するさなかの中学生が、地域での役割を自ら考え、行動することで人間性を養い、将来の浜田地区を担う人材を育成することを目指しています。

## 目標

### 1年生

中学生として初めての訓練を、**地域の中で何ができるかを自分で考える契機**とする

### 2年生・3年生

前年度の訓練で体験したことから、**地域における中学生の力の重要性を再確認する**

# 浜田地区防災訓練の3年間の流れ

1年生からの3年間で違った訓練を体験できるように、訓練内容を3年サイクルで計画しています。1年生、2年生の時に訓練で体験したことを3年生でどのように発展させるかを地域の目線で見守っています。

## 平成29年度

- バールを使用しての救出救護訓練
- 食料物資配給訓練
- 応急手当訓練、身近なものの活用訓練

## 平成30年度

- 避難経路マップ作成
- 避難経路点検訓練
- 非常炊き出し訓練

## 令和元年度

- 港中学校避難場所確認
- 簡易トイレ組み立て、使用訓練
- ダンボール間仕切り体験
- 地震体験車試乗
- 非常炊き出し訓練

**いずれについても中学生が体験、  
もしくは中心となって参加した訓練**

# 平成29年度

平成29年11月25日（土） 港中学校 グラウンド  
参加者485名（うち港中学校生徒230名）



各自治会で一次避難場所へ集まり、訓練会場（港中学校）へ移動。

高齢者をリヤカーに乗せ、中学生が引っ張って避難する姿も見られました。



中学生が率先してテントやアルファ米などを運び、本部を設営しました。



『自ら考え、行動する』ことができる中学生の姿を見せてもらいました。

## ボールを使用しての救出訓練



消防署職員の指導のもと、男女問わずたくさんの中学生がボールを使用して、救出救護訓練を体験しました。

## 応急手当訓練

サルビア分団の指導のもと、三角巾を使った応急手当訓練を体験しました。



## 身近なものの活用訓練

毛布のみで人を運ぶ体験をしました。また、大きな大人を楽に運ぶ方法を学びました。



## 食料物資配給訓練

自治会長が見守る中、中学生が中心となってバローへ食料を取りに行き、パン、お茶、リッツを小分け、配布まで行いました。





# 平成29年度 浜田地区防災訓練を終えて 港中学校生徒の感想

足の固定の仕方や、毛布を使って人を運ぶ方法などを学び、身近なものでできるならやってみようと思いました。がれきなどから助ける方法も、てこの法則を使うことで人を助けられることが分かり、勉強になりました。

地域の人と助け合う大切さをよく学ぶ事ができた。訓練じゃない時にしっかり行動できるようにしたいです。

人の救助の仕方や運び方、応急手当の仕方など、もしもの時に備えてのことをたくさん学ぶことができました。今回の防災訓練で、もしもの時の行動のとり方や、命の大切さを知ることができました。避難場所なども、もう一度家族で見直しておく必要があるなと再確認することができました。防災訓練で教わったことを家族に報告することもでき、地震や火事などの危険を思い出すこともでき、とても良い機会になりました。防災訓練で地域の人と協力して活動することもでき、わかったこともたくさんありました。また防災訓練があったら自分のためにも家族のため、地域の人たちのためにぜひ進んで参加したいと思いました。

# 平成29年度 浜田地区防災訓練を終えて 港中学校生徒の感想

今日は防災のことについていろいろなことを学びなおしました。防災訓練は、自分の命を守るためだけではなく、人の命を守ることにもつながると思いました。最後の話でも、訓練は行うだけでなく、何のためにやるのか、それを行う人が思っている人はどんな思いを持っているのかを考えるのは、とても大切だと思いました。

実際に地震があったら自ら率先して動くことが大事だと思った。そして、今回教えてもらった、搬送、止血、救助の方法はあくまでも一例で、実際にはボールや毛布、三角巾が都合よくその辺に落ちていることはない。なので、その場で臨機応変に対応できる柔軟さも大事だと思った。

防災訓練に参加してみて、自分たち中学生は守られるのではなく守る側であり、率先して行動を起こす必要があると実感することができました。今回訓練で学んだことは、いざというときに活用できるようにしていきたいと思えます。

# 平成29年度 浜田地区防災訓練を終えて 港中学校生徒の感想

実際に起きたときにどのような動きをすればよいかよくわかりました。手当の仕方など、役立つなとおもいました。私は3つ訓練があったけど1つしか行けなかったけどすごい良かったと思いました。北浜田メンバーは食料を入れるのをすごい頑張りました。実際に起きてもあわてず冷静に動けたらいいと思うし、先輩でもあるからみんなより先にできることを探せて行けたらなと思いました。いい経験になりました本当にありがとうございました。

地区の人と協力して三角巾などでの怪我した時の結び方などを教えあうことができました。本当に災害などがあつた時、中学生が中心となつていろいろなことをしなければいけないと思うので、今回自分でもできることが学べてよかったと思います。そして、災害があつた場合は今日学んだことを活かして動いていきたいと思っています。

避難訓練は集合する場所もあるし、どういふときにどう対応すればいいかも分かるので良いと思う。東日本大震災の時は中学生が一般人を先導していったからこれからもこういうことは続けていった方がいいと思った。

# 平成29年度 浜田地区防災訓練を終えて 港中学校生徒の感想

応急手当の三角巾やネクタイなどがいきわたるように用意して下さっていて、聞いただけでは少しわからなかったし、忘れてしまったかもしれないけど、やってみたことで、どうすればいいのかよくわかりました。けがとかをしている人の移動のさせ方では、前に授業でやったことがありましたが、忘れていて、思い出すことができ、何度もやることは大切だなと思いました。そしてしたじきになってしまっているひとの救出では、説明を受けた後、やってみたとき棒を置くときは平らな面が下なことを忘れていて、教えてもらえたのでやる機会があれば今度こそしっかりできそうです。

手当の仕方、救助の仕方を中心に学び、また、避難経路の確認ができ、とても貴重な時間でした。ただ、1人で行動するのではなく、何人かで協力して行動することが大事なんだなと思いました。今回の防災訓練で学んだことを活かし、これからもし災害が発生した場合には積極的に行動したいです。

# 平成29年度 浜田地区防災訓練を終えて 港中学校生徒の感想

9時30分から行われた「ボールによる救出」では重い荷物を動かすときに最適で、もし地震で建物やレンガが倒れてきたときは、ボール以外でも使えそうなものをボールとして、この原理で人を助けたいなと思いました。他にも「搬送方法」や「応急手当」の方法を教わりました。今回の防災訓練で4つ学んだことをいつ起こるか分からない「南海トラフ」で活かしたいと思いました。それと同時に、もし地震が起こったらより多くの人を助けたいという思いが強くなりました。たくさん負傷者が出ないように中学生が中心となって行動したいと思いました。

本当の災害が起きたときに、人の救助やけがの手当て、けが人を運ぶ訓練をやって、本番で起きたとき、大変だけれどもすごい勉強になった。一人一人の命を守るために、地区のみんなが一人一人協力して、助け合っていくのが重要だとわかった。私たち中学生も、自分たちに何ができるのかきっちり考えていくことも大切だということ学んだ。

# 平成30年度

平成30年11月10日（土） 浜田小学校 体育館  
参加者389名（うち港中学校生徒145名）

## 避難経路点検訓練

【1ブロック】 西浜田町 九の城町

【2ブロック】 安島 鶴の森一丁目  
鶴の森二丁目  
鶴の森二丁目第二

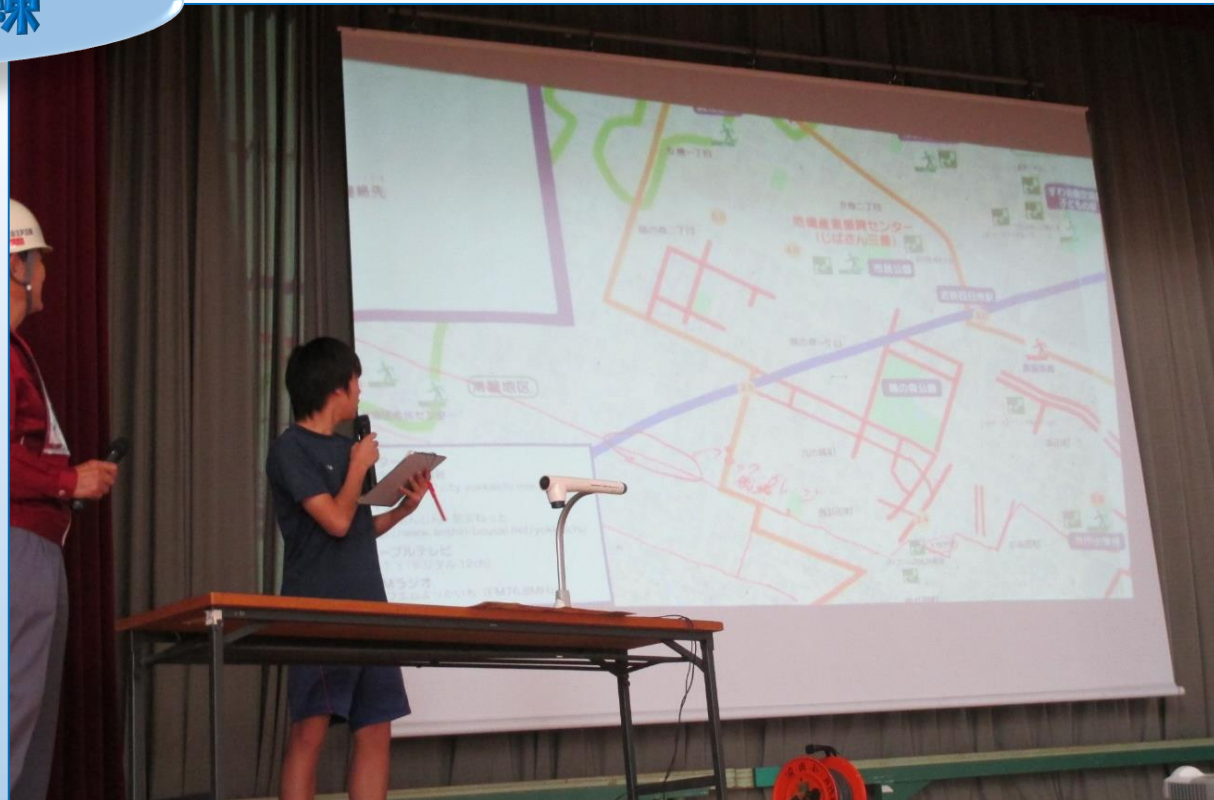
【3ブロック】 浜田町第三 浜田町第一  
浜田町第二 浜田町第四  
中浜田町 南浜田町

【4ブロック】 朝日町南部 三栄町 三栄第二  
幸町東 幸町西 幸町南  
幸町第四 朝日町中部

【5ブロック】 北浜田町 十七軒町

【6ブロック】 新正町

【7ブロック】 曙二丁目 昌栄町 末広町  
南起町 曙町 曙一丁目



各一次避難場所から中学生も大人と一緒に避難経路の危険個所を点検しながら訓練会場（浜田小学校）へ避難しました。

浜田地区7ブロックそれぞれの代表者が避難経路で気づいたことを発表しました。代表者はすべて中学生が務めました。

## 非常炊き出し訓練



平成30年度は、避難経路点検結果の発表の合間に、炊き出しの手伝いをしてくれる中学生を募りました。



自主的に手を挙げ、手伝いに参加してくれた生徒が、こんなにたくさんいました。

炊き出しができて上がるまでの間、浜田地区防災委員会の委員長、委員が、防災について中学生にもわかりやすく話をしました。



## 防災についての話



# 令和元年度

令和元年11月9日（土） 港中学校 体育館  
参加者556名（うち港中学校生徒156名）

中学生のみなさん！さあ、参加しよう！地域の安心と未来はあなたたちの手で。

中学生のみなさん！さあ、参加しよう！地域の安心と未来はあなたたちの手で。

## 令和元年度 浜田地区 防災訓練

11月9日(土) 雨天決行  
※雨天でも大雨降る場合は、  
避難された場合は中止

◆災害想定◆ 8時30分、大地震が発生。浜田地区は震度6強を襲う。（津波は無し）

**発災**  
8時30分  
サイレンでお知らせ

シェイクアウト訓練

各自の場で安全を確認し、  
各町で港中学校へ避難する



自治会で  
集合して

避難訓練集合場所  
港中学校 体育館

港中学校体育館で受付開始

★ スリッパ(止靴)と靴入れを持参してください

訓練内容

- ① 港中学校避難場所確認
- ② 簡易トイレ組み立て・使用訓練
- ③ タンボール間仕切り体験
- ④ 地震体験車試乗
- ⑤ 非常炊き出し訓練

★②③⑤は中学生も体験スタッフ

ぜひ、訓練に  
ご参加ください

三重大学大学院 川口淳 先生による講評

訓練終了 おいしい炊き出しごはんをもらって帰る

上 標：浜田地区上防災組織連絡協議会・浜田地区連合自治会

お問い合わせ：浜田地区市民センター 浜田市東通一丁目8-3 TEL. 054-918-346



一般の回覧とは別に中学生用を用意し、中学生に訓練参加を呼びかけました。

令和元年度は各自（各世帯）『避難者個票』を持って避難しました。中学生にも実際に受付を通ってもらいました。



# 港中学校避難場所確認

指定避難所である港中学校に避難所を開設した場合、何階のどの部屋が何の部屋になるのか、イメージできるようにプレートを掲示し、訓練参加者に見てもらいました。



# 簡易トイレ組み立て・使用訓練



簡易トイレを組み立てて、取り付けたビニールの中に凝固剤と水を入れ、実際に簡易トイレを使ったときにどのようになるのか、また、実際に座ってみたり、疑似体験をしました。

## 地震体験車試乗

港中学校の生徒は学校の訓練で体験していますが、一般の訓練参加者とともに、地震体験車の試乗をしました。



## ダンボール間仕切り体験



一人3.3㎡のスペースはどんなものなのか、実際に広さを体験しました。

(現在は一人4㎡)  
また、ダンボールのみで作ったベッドの強度、寝心地を体験しました。

# 非常炊き出し訓練

令和元年度も炊き出しの手伝いを、中学生に募ったところ、自主的に手を挙げてくれた子ども達がたくさんいました。



今年は男女とも、たくさん手伝いに参加してくれました。

# 川口先生の講評

三重大学の川口先生に訓練の講評と、パワーポイントを使って巨大地震に備えて「いまやるべきこと」をお話しいただきました。中学生の心にも残る講演となったようです。



三重大学大学院工学研究科  
川口 淳 准教授

# 令和元年度 浜田地区防災訓練を終えて 港中学校生徒の感想

実際に災害が起きた時、避難所の1人あたりのスペースは3㎡しかなくて、それがどれくらいの広さなのかよくわかりました。川口先生のお話のなかで「危険を感じたら『大丈夫、大丈夫』と思わずにとにかく避難する。空ぶりは許されるけど、見逃しは許されない。」という言葉がすごく心に残りました。

土曜日の防災訓練では、友人3人を巻き込んで、炊き出し訓練に参加しました。友達と話していたのは「私たちが率先してやらないと意味ないよね。」ということです。積極的に参加して良かったです。

土曜日の防災訓練をして、今まで大人が色々してくれると思い込んでいたけれど、実際に地震が起こった時は中学生が一番役に立つと言われて、自分はやらしてもらった側ではなくやる側ということに気づきました。炊き出し訓練もやってみて、実際に地震が起こった時にしっかりと私たちが役に立てられるような中学生になれたらいいなと思いました。

# 令和元年度 浜田地区防災訓練を終えて 港中学校生徒の感想

避難所で1人で所有できる面積が、とても狭くて驚きました。実際に避難所での生活となると、まだ居場所があるだけ良いので、所有できる面積を有効に使おうと思いました。地震体験車は、何回か乗ったことはありますが、やっぱりいつ乗っても怖いです。私は大きな地震を経験していないので、物の倒れ方や落ち方などあまり分かりません。でも、地震体験車に乗ると想像はつきました。私の家はテレビや冷蔵庫、棚などを固定していないので、これを機に家の物を固定しようと思いました。

家に居る時以外の避難の道を確認することができたので良かったです。間仕切り仕方やトイレの組み立て方とか、知らない事が多かったけど、学ぶ事ができました。避難所では、1人あたり3.3㎡って言っていて、どのくらいか分からなかったけど実際みってみるとすごく狭かったです。ダンボールで自分で組み立てなきゃいけないから、くわしく作り方も知ってなきゃいけないと思った。地震がおきた時にストッパーとかをつけてダンスやテレビが倒れてこないようにしなきゃいけないなと思った。

# 令和元年度 浜田地区防災訓練を終えて 港中学校生徒の感想

地震が起こった時には中学生がみんなを引っ張っていくと言っていましたが、もし本当に地震が起こった時、自分達はそんな冷静になって動けるのかなと思いました。自分ならパニックであたふたしてしまうなと思いました。地震が起こってタンスが倒れてこないようにするストッパーはついている所とついていない所があったので見直したいです。

土曜日の防災教室では地震体験車に乗って、とても大きく揺れていたことが心に残りました。家に帰って持ち出し袋を作るきっかけになりました。地震が起きた時は、中学生がリードして素早く避難したいです。

これら以外にも、3.3m<sup>2</sup>の狭さに驚いた、避難所の生活は我慢を強いられると感じた、家具の固定や非常持ち出し袋や備蓄品の準備をしようと思った、などの感想が多くありました。

令和2年度

令和2年7月12日（日） 浜田小学校 体育館 他  
参加者総勢 71名

# 感染症対策避難所運営シミュレーション

## 避難所開設時

### 体調不良者用の場所の確保



体調不良者用の別室を複数確保します。  
当日は浜田小学校の特別教室2部屋を  
準備しました。

## 受付体制の確立

避難者用事前受付の準備と、  
動線の設定を行います。



1 m間隔で  
養生テープを  
貼り、受付を  
待つ場所を示  
しました。



動線の設定は、体調不良者  
とその他の方が通る経路を  
分けることを意識して行い  
ます。



# 避難者事前受付

避難者事前受付には、

- 手指消毒用アルコール
  - 非接触型温度計・チェックリスト
  - 筆記用具・マスク（予備）
- を、準備します。



## チェックリスト

熱があるか、新型コロナウイルス感染患者との接触があったか、などの質問に回答し、体調の確認をします。「はい」がひとつでもある場合、体調不良とします。

避難されてきた皆様へ (各 前)

(連絡先 (電話))

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためのチェックシート記入にご協力ください。

- 現在、熱がありますか。  
はい (ある場合は… 日前から、 °C程度)  
いいえ
- 風邪症状はありますか。  
はい (咳・ のどの痛み・ 強いだるさ・ 息苦しさ・ 臭いがない・ 味覚がない・ 他 )  
いいえ
- 2週間の間に新型コロナウイルス感染患者と接触がありましたか。  
はい (いつ頃: )  
いいえ
- 2週間の間に海外やクラスターが発生した場所に出かけていましたか。  
はい (いつ頃: ) (どこへ: )  
いいえ
- 2週間の間に海外やクラスターが発生した場所から帰省、来訪された方との交流がありましたか。  
はい  
いいえ

記載いただいた内容は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に使用し、それ以外の目的には使用しません。

事前受付スタッフは、マスク、フェイスシールド、使い捨て手袋を着用します。当日は避難者事前受付を、2か所設置しました。

# 避難所内受付

避難所内には、地区内受付、地区外受付、体調不良者等のエリアには、発熱者エリアの受付、チェックリスト該当者の受付を設置しました。



受付(地区外)【体育館内】

避難所内受付

【体育館内】



受付(地区内)【体育館内】



発熱者エリア受付【特別教室】

体調不良者等受付

【特別教室】



チェックリスト該当者受付【特別教室】

# 避難所のエリア分け

メジャー、養生テープ等を活用し、避難スペースの設定を行います。  
避難スペースは避難者一人当たり4㎡、  
通路は1～2mとるようにします。



# 避難者到着時

## 事前受付（スクリーニング）の開始



避難者事前受付(スクリーニング)

検温を実施し、37.5℃以上の方や、チェックリストで体調不良の方と、その他の方の動線を分けて、プライバシーに配慮しながら誘導します。

チェックリストに「はい」がなかった避難者



発熱者等以外の受付【体育館内】



チェックリストに「はい」が一つでもあった避難者



発熱者等の受付【特別教室】

# スクリーニング後の誘導先



チェックリスト該当者の避難所



発熱者の避難所



発熱者等以外の避難所

## 誰が どこを どう管理?

# コロナ禍の避難所課題探る

新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭に置いた、風水害時の避難所運営訓練が十二日、四日市市北浜田町の市立浜田小学校であった。QRコードで動画。浜田地区自主防災組織連絡協議会の主催で、地域住民をはじめ四日市市職員、同小教職員ら約七十人が参加。コロナ禍の避難所運営の課題を共有した。

(梅田盛晴)

### 四日市市が新指針参考に初



市が六月に策定した新型コロナウイルス対策のガイドライン(試行版)の内容実施は今回初めて。結果を検証する狙いもある。同



### 浜田小で訓練

災組織のマニュアルに反映させる。体育館の出入り口付近ではガイドラインに従って、体調不良者のスクリーニング受付を設置。特別教室では、「発熱者エリア」「チェックリスト該当者エリア」の設定、避難所内の受付や通路などを設置した。館内ではブルーシートで区画を決め、パーティションや屋根付きのプライバシールームを置いた。

避難所設置が完了後、避難者役を受け入れ、フェースシールドやマスク、手袋を着用した担当者が、検温や簡単な問診をして行き先を振り分けた。受付では、それを必ず防災担当副団長

居住地域や来所人数などを聞き取った上で、所定の位置に誘導する流れを確認した。訓練で、三重大学院の川口淳洋教授は「今日それを聞いた上で、避難所やイライラ、不安を抱いたと思う。それを必ず防災担当副団長に伝えることが大事。訓練できたのは大きな成果だが、今日がスタート。一人一人がよく考えてほしい」と求めた。

感染管理認定看護師で県立総合医療センターの垣内由美感染対策室長は、スクリーニングの間診時に避難者より距離を取ることで発熱者の動線を明確に分けること、案内表示を大きいものにするなどを提案し、「本書で有効にガイドラインを生かせるようになれば」と呼び掛けた。

浜田地区連自治会長で同地区自主防災組織連絡協議会の山路和良会長(右)は「訓練を初めてやってみて新たな問題点があった。例えば、いざ災害が発生した時に、誰が、どこを、どのように管理していいのか。日ごろから訓練しながら、住民には、自分の身は自分で守る意識を持ってほしい」と話した。

令和2年7月15日 (中日新聞)

# 感染症対策の視点からの避難所とは…

感染症対策により、避難所の収容人数が少なくなりました。このような中、命を守るためにはどうすべきか「自分で考え行動する」力をつけるため、浜田地区では以下のような啓発をしています。

## 自宅が危険な状態でなければ「自宅で避難」

港中学校や浜田小学校だけが避難所ではありません。台風等で自宅が倒壊する恐れがある場合、大雨で自宅が浸水する場合は早めの避難が必要ですが、マンションや頑丈な建物に住んでいる場合は、2階以上へ避難する「在宅避難」が有効です。

## 自分の避難所を決めておく

避難所は「難」を避ける場所です。学校の体育館などの公共施設だけが避難所ではありません。安全な親戚の家、知り合いや友達の家へ行くことも考えておくことが感染症対策につながります。

## 間に合わないときはいつもの避難所へ

自分が決めておいた避難所へ逃げるできない場合は、学校の体育館などの「いつもの避難所」へ逃げましょう。**感染症の危険よりも、目の前の自然災害から命を守ることが、一番大切です。**

# まとめ

## 防災力向上に必要なこと

### ★人と人とのつながり

社会は人と人との集まりであり、心と心のふれあいで作られるものです。日頃から、地域の中で顔を合わせてコミュニケーションを図ることで、助け合う心、団結力が生まれます。

浜田地区は大きな地区ですが、隣近所のお付き合いを大切にする目的も含め、地区社協と連合自治会とが協力して年間数回の三世代交流地域行事を実施しています。

### ★ひとりひとりが訓練で役割を培う

大人も子どもも、人は誰かに必要とされることで、やる気が出たり、力が発揮できることがあります。港中学校の生徒たちのように防災訓練に参加し、地域の中で役割を持つことは、子ども達のやる気を引き出し、地域のために力を貸してくれる頼もしい存在となると考えています。

### ★きめこまやかな情報発信

「浜田地区自主防通信」を地区内で組回覧し、防災に関する情報を発信することで、住民一人一人への意識付けを行っています。親しみやすく、わかりやすい内容で防災に必要、かつ大切なことを伝えています。

互助・互敬の精神で

相互依存・相互扶助

明るく元気なまちづくり



ご清聴ありがとうございました

四日市市 浜田地区自主防災組織連絡協議会

四日市市 浜田地区連合自治会

会長 山路 和良

鵜の森公園(浜田地区内)